

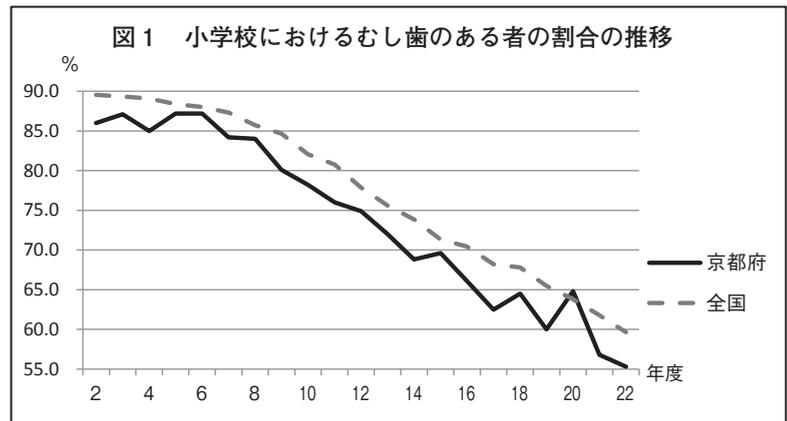
# Statistical Room



## 減っていく子どものむし歯

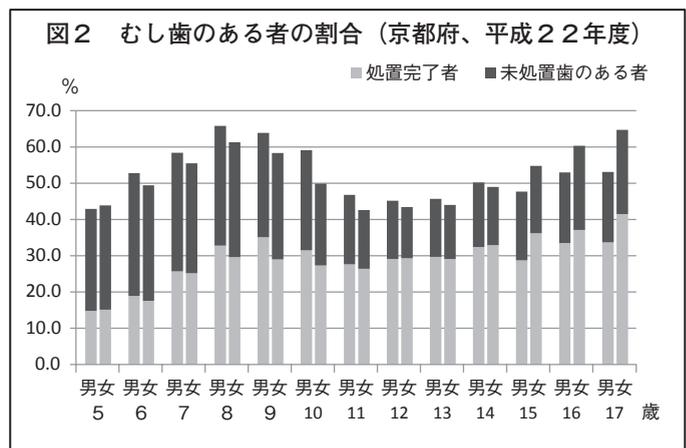
6月4日から10日は、歯の衛生週間です。子どもの頃、小学校で歯科検診を受けたことを思い出す方もおられるのではないのでしょうか。今回は、子どものむし歯についてみてみたいと思います。

文部科学省では、健康診断の結果を学校ごとに抽出し取りまとめたものを、「学校保健統計調査」として公表しています。図1は小学校におけるむし歯のある者（処置完了者を含む）の割合の推移を表したものです。平成2年度では、約90%の児童にむし歯があったのに対し、20年後の平成22年度では約60%まで



低下しており、むし歯の予防に対して関心が高まっていると思われます。全国と京都府を比較してみると、平成20年度を除いて京都府の割合は全国より低くなっています。京都府は全国よりむし歯が少ない傾向にあるといえるでしょう。

次に、処置完了か未処置かをみてみることにしましょう。図2は5歳から17歳の男女別に処置完了者と未処置歯のある者を分けて表したものです。年少のあいだは未処置歯のある者の割合は高いですが、年齢が上がるにしたがって未処置歯のある者の割合は低くなる傾向にあります。



健康な歯は、健康な体づくりに欠かせないものです。暑い夏に負けない体づくりのためにも、日頃からむし歯予防を心がけるとともに、早期治療により元気な歯を維持できるようにしたいものです。